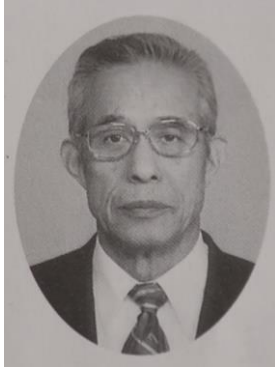


ス ポ ー ツ と 歩 ん で <sup>(※1)</sup>高普第5回卒 荒 孝一 <sup>(※2)</sup>

昭和 25 年 4 月に相馬高校に入学、磯部の自宅から片道 10km の砂利道を毎日 3 時間強、高下駄を履いて通学しました。入学時にサッカー部に入部したかったのですが、帰宅時間が遅くなるため個人競技で早仕舞いの出来る柔道部に所属しました。いつも早く練習を切り上げるため、選手生活を経験することは出来ませんでした。しかし、この遠距離通学がサッカーでのスタミナとスピードを培うこととなり「災い転じて福」となったのでした。

卒業時にはどうしてもスポーツを続けたかったので、福島大学に新設された特設体育学科を選びました。3年間クラス担任であった岡田正一 <sup>(※3)</sup> 先生には大変お世話になりました。

入学とともに迷わずサッカー部に入部しました。幸いにもサッカー部の顧問教官は極東オリンピックに出場した日本の代表選手の佐々木等教授で、また、私の研究室の担当でもありました。教授からは技術はもとより戦術等の理論についても多くの指導を受け、私のサッカーに大きな影響を与えてくれました。また、大学では奇しくも相馬中学校出身の青田峯雄 <sup>(※4)</sup> 先生（立高飛日本記録保持者）に師事することができました。

福島大学卒業の昭和 32 年 4 月に中学校の体育教師となり、38年間の教員生活のスタートを切りました。就職後の6年間は、体操、バスケットボール、ソフトボール、陸上競技部等の顧問でしたが、同 38 年 4 月に向陽中学校宇多校舎に転任して念願のサッカー部を創設しました。校庭が狭いために毎日部員とともにランニングをして長友公園まで通って練習しました。在任の9年間に残念ながら県優勝は1回しかできませんでしたが、ベスト3には常に入っていました。これも小泉義康 <sup>(※5)</sup> 先生のご好意で母校相高グラウンドで毎日練習させていただいたお陰と今も感謝しております。優勝時のメンバーの大半は母校の相馬高校に入学し、1年生が主力メンバーであるにもかかわらずインターハイに出場して長崎南高を破り2回戦に進出しました。

自分自身も、教員団と相馬高OBの両チームに所属し、県内では数多くの優勝を経験しました。また、県教員チームの監督兼選手として48年には国体に初出場することができました。私の後任監督の時に国体に教員の部がなくなったため一般人も補強し、平成7年にはJFL（ジャパンフットボールリーグ：現J2）に所属しながら福島国体で優勝を果たしました。平成8年にはプロ化に伴い大型補強をしましたが、前年の13位から14位に転落したため、高額の監督・選手（含ブラジル3選手）を放出し、私に監督の要請があり補強ゼロでボランティア監督としてスタートすることになりました。週4日、相馬～郡山間を通いました。東京での監督会議も自費出張でした。シーズン終了後にJリーグ2部の発足に伴い、日本サッカー協会より加盟打診があり、加盟の意思表示はしませんでした。前年の大型補強の借金解消が解決できないため、加盟を断念せざるを得ませんでした。福島県のサッカーへの環境はまだまだと痛感しました。ただ前年度の成績を上回り、10位とベスト入りできたのがせめてもの慰めでした。

一方、相馬市体育指導委員会会長在任中（平成 12～16 年度）に、当時市教育長であった同級生の武田昭<sup>(※6)</sup>君と 2 年間近い検討期間の後、平成 14 年 3 月にレクリエーション協会、同 12 月に総合型地域スポーツクラブ「そうま中央スポーツクラブ」を設立しました。

…………… 中 略 ……………

クラブでは文化活動の実施も検討し、同級生の森義男<sup>(※7)</sup>君が将棋サークルを設置するとともに、文化コースの拡充への努力を行っております。また、お目付け役の監事にやはり同級生の横山重久<sup>(※8)</sup>君をお願いし、運営へのアドバイスを多々いただいています。

私たちの「NPO 法人そうま中央スポーツクラブ」では専門的なスポーツ活動や運営に経験のある人が少ない集団ではありますが、一人ひとりが意欲的・協力的に活動しています。

私個人としては、現在、平成 12 年から始めた太極拳の技の向上とその奥義に迫るため、老いのからだに鞭打って若い人と競い合いながら上級資格の取得に努めています。

スポーツ以外では退職後の平成 7 年から社会教育指導員として前任者の後を引き継ぎ「相馬市生涯学習振興計画」を樹立し、同 7 年 12 月には「生涯学習宣言都市相馬大会」を運営しました。また、同 7 年 9 月に保護司となり、同 16 年 4 月から相馬地区保護司会会長として、青少年の健全育成と犯罪者の更正に少しでも寄与できればと活動しています。

教員時代にお世話になった地域の方々への恩返しの気持ちも込め、ささやかではありますが、このような社会貢献活動をとおして忙しい中にも充実した日々を過ごしております。

人生には限りがありますが、向上心や地域力には限りがないのではと実感しているところです。私たちは将来に向けた地域の活動に小さな一歩を踏み出したところです。

相馬市在住の方には「総合型地域スポーツクラブ」への一層の理解と協力をこの場を借りてお願いするとともに、在校生諸君には身近なところから先駆的活動に意欲的に取り組むとともに、社会に貢献する意思を培ってくれることを熱望するものです。

(※1) 創立 110 周年記念誌『紅の旗』(2009(平成 21)年 1 月発行)の「想い出の記」〈ああ、我々が青春の日々よ〉より。

(※2) 昭和 28 (1953) 年卒、磯部出身。

(※3) 相中第 36 回、昭和 13 (1938) 年卒、中村出身。昭和 24～47 年・相高教諭。

(※4) 相中第 35 回、昭和 12 (1937) 年卒、原町出身。

(※5) 相中第 40 回、昭和 17 (1942) 年卒、中村出身。昭和 23～48 年・相高教諭。

(※6) 相高普第 5 回、昭和 28 (1953) 年卒、中村出身。

(※7) 相高普第 5 回、昭和 28 (1953) 年卒、中村出身。

(※8) 相高普第 5 回、昭和 28 (1953) 年卒、中村出身。